

## 平成 18 年度 第 2 回科学計測専門部会 議事録

日時：平成 18 年 8 月 2 日 13:30~17:50

場所：JAMSTEC 東京事務所 セミナー室 A

出席者（敬称略）

科学計測専門部会

部会長：斎藤実篤（海洋研究開発機構）

委員：岩井雅夫（高知大学）小田啓邦（産業技術総合研究所）木村浩之（静岡大学）佐藤暢（専修大学）

成瀬元（京都大学）林為人（海洋研究開発機構 [非破壊計測共同 WG 長]）

増田幸治（産業技術総合研究所）

STP 委員：岡田誠（茨城大学）阿波根直一（北海道大学）笠原順三（日本大陸棚調査）鈴木紀毅（東北大学）

技術開発推進専門部会長：木下正高（海洋研究開発機構）

執行部員：石橋純一郎（九州大学）

IO[JAMSTEC/CDEX]：松田繁美、許正憲、白木正弘

事務局：山田泰 長橋徹 加賀谷一茶

欠席者（敬称略）

科学計測委員：池原実（高知大学海洋コア総合研究センター）

STP 委員：坂本竜彦（海洋研究開発機構 [情報システム WG 長]）布浦拓郎（海洋研究開発機構）

山本正伸（北海道大学）

孔内計測共同 WG 長：荒木英一郎（JAMSTEC）中村恭之（東京大学）

非破壊計測共同 WG 長：池原研（産業技術総合研究所）

IO[JAMSTEC/CDEX]：Moe Kyaw Thu

議事内容：

1. 出席者紹介の後、佐藤委員を書記に指名した。
2. 配付資料の確認を行った。
3. 前回議事録確認：承認された

### 4. J-DESC 報告

- ・ 資料訂正：資料 2 - 2 SASEC の開催時期・場所  
2007 年 2 月 3 月，欧州 ビデオ会議，にそれぞれ変更
- ・ 資料 2 - 1 にそって報告（長橋）
- ・ 事務局（阿波根）
  - 2006 年 7 月から SPPOC が SASEC に変更
    - ◇ 人数が減るが，mandate はほぼ同じ（long-range plan の策定など）
    - ◇ 日米欧の著名研究者が各国で lecture するような企画がある
  - New Jersey MSP (Exp.313)の乗船研究者の募集
    - ◇ 計画が延期され，来年度に実施
    - ◇ J-DESC 枠は 6 名．堆積学研究者に偏ったので，追加募集中
  - NanTroSIEZE の乗船研究者の募集
    - ◇ 2006 年 8 月までには IMI から公募
    - ◇ 2006 年 11 月 1 日までに公募リストのランキング提出
    - ◇ 全航海分約 50 名を一度に募集する（石橋コメント）

【委員等】どのような分野の研究者を募集するのか？古生物分野には宣伝が進んでいないようである．

【事務局】航海によってはターゲットの違いにより偏る可能性はある．

【部会長】乗船研究者の募集は J-DESC，専門部会のタスクでもあるので，今後本専門部会としても方法を考えたい．

### 5. CDEX 報告（松田）

- ・ 資料 3 - 1，3 - 2
  - 下北掘削（8 月 7 日八戸出航）

- ◇ 水深 1180m の地点で、海底下 2200mまで掘削
- J-CORES
  - ◇ 2006 年度の開発項目
  - ◇ 8 月からの「ちきゅう」航海では、Live VCD を目指す
- 「ちきゅう」新装備
  - ◇ 海洋ブロードバンド
  - ◇ ROV (BOP の確認などのため)
  - ◇ マグネットヨーク (船上でのパイプ移動のために磁石を用いる)
- 下北掘削以降の計画

【委員等】マグネットヨークによるパイプの磁化について、古地磁気測定には影響が多そうだ。パイプそのものは、マグネットヨークを使わなくても磁化していると思うが、影響を調べて欲しい。

【委員等】乗船するので確認したい。(小田)

【部会長】古地磁気測定に関する影響に関しては小田に検証してもらおう。

【部会長】来年 8 月の NanTroSEIZE までに下北掘削での乗船研究者の評価をフィードバックする必要があるが、海外に行っても大丈夫か？

【松田】最少人数のマリンワークや staff scientists が乗船し、フィードバック・NanTroSEIZE の準備を行う。

【委員等】マイクロバイオの汚染調査について、PFC が挙げられているが、手順や装備はどうなっているか？

【松田】分かりかねる。

【委員等】下北掘削中の進捗状況や daily report は出るのか？

【松田】週単位くらいで「ちきゅうはっけん」のサイトが更新されるだろう。Daily report に関しては、私にコンタクトしていただきたい。

#### 6. 技術開発専門部会および EDP 報告 (資料のみ)

【部会長】STP は今必要な技術の検討を行うが、EDP は中・長期的な技術開発を検討するパネルである。今後は、両専門部会長がお互いにリエゾンとなり、両専門部会で協調していく。

#### 7. STP 報告 (岡田)

- ・ Recommendation 06-06-03: 航海後に更新されるデータ (age model など) も IODP で管理する。
- ・ Recommendation 06-06-04: IODP-MI が Q A / Q C に関するタスクフォースを設置したが、人選が地球化学に偏っていたので再考を促した。
- ・ Consensus 06 - 06 - 05: STP として、メンバーの分野の偏りが生じないように、各国オフィスに要求する
- ・ Consensus 06 - 06 - 06 ~ - 10 ( - 08 以外): SODV 関係
- ・ Consensus 06 - 06 - 12: Depth Scale Meeting に S T P からメンバーを派遣
- ・ Consensus 06 - 06 - 15: LA-ICP-MS について、今後、実際の動作確認を行う。
- ・ Consensus 06 - 06 - 16: Curatorial Advisory Board に S T P から山本・布浦に参加してもらおう
- ・ 次回は 2007 年 1 月ごろ、モンテレーにて
- ・ 岡田 S T P 議長は今回で勇退。S T P 委員・専門部会委員が拍手で労をねぎらった。

#### 8. WG 報告

- ・ 孔内計測WG 特に進捗無し
- ・ 非破壊計測WG 「ちきゅう」搭載非破壊計測機器の使用方法について、「ちきゅう」で見学し、CDEX より説明を受けた。CDEX により、計測マニュアルのコンテンツを 2007 年 1 月に作成、マニュアル Ver 1 は 2007 年 3 月に完成の予定である。そのため、WG の当初任期内 (2007 年 3 月まで) では、マニュアルの完成が困難で、WG 任期延長が必要
- ・ 情報システムWG 7 月に開催された WG の議事録を提出

#### 9. 専門部会提言・実行項目などのレビュー・報告

- ・ 乗船研究者アンケート
  - 専門部会で実施したものは前回と同様 (岩井)
  - J-DESC 事務局実施分 (阿波根)
    - ◇ アンケート結果は集計中。主席研究者分は静岡大・海野、乗船研究者分は秋田大・佐藤が報告書作成。
    - ◇ ネガティブな意見が多かった。

◇ 秋ごろにはまとめる予定であるが、公表については検討中。

【委員等】研究者の要望・要求をどのようなルートで上げるかを明確にする必要あり。

【部会長】STP から SPC へというルートが公式ルートでは？

【阿波根】National Office には拘束力がないので、SAS に上げるのが一番良い。細かいところは、乗船中などに直接 IO へ。

【委員等】窓口を一本化する方が良いのでは？

【部会長】集約するのは専門部会・J-DESC 執行部で、その後どこへ振るか決める。

- 専門部会担当部分のアンケートはいつでも公表できる。
- 陸上施設の認知については、乗船の決まった研究者に案内を送付すればよい。
- アンケートの整理がついた段階でマニュアル作成という方向に進める。
- XRF ,ICP-AES の精度について岩石学者からの苦情が多いので、今後も要求を出す必要がある。

・ 孔内 P T 計測 (笠原)

- 孔内計測 WG に依頼したがアウトプットがなかったので、分解能・キャリブレーション・サンプリング頻度などの問題点を挙げて STP で報告した。
- Consensus 06 - 06 - 08 となり、各 IO に回ることになった。
- その他、関連項目として Recommendation 06 - 06 - 01, Consensus 06 - 06 - 08 について

・ Multi-data browsing system (成瀬)

- 「ちきゅう」下北掘削におけるコアラボ経験者を招いて、次回情報 WG で検討

・ Well-site geology (佐藤)

- 昨年度最終報告から進捗なし

・ 微生物ラボ QA/QC (木村)

- SODV のラボ改良について提案
- サンプルは expedition sampling plan として取り扱うことを要望
- 10 月に IODP WS が開催されるので、standard の提示をすべく働きかけたい。

## 10 . STP/IODP Meeting 対応について

### (1) VCD Lithology (成瀬)

VCD/lithology についての IODP 国際会議が 9 月 27・28 日に開催される。J-DESC 案として、8 月 20 日までに VCD 第 1 次案を国内検討としたい。集約した意見を検討・反映させた上で、9 月初旬に IODP-MI に提出する。

【委員等】非常に細かい内容まで決めても、対応できない事例も出てくるので、Explanatory Note で対応するようにしたほうが良い。

【委員等】記載スキームが「ちきゅう」向けなのか国際対応を目指すものなのかが明確でないので、依頼文を変更するほうが良い。

依頼文の文面を一両日中に検討し、かつファイルの提示の仕方を検討した後で、配布することとなった。

### (2) Depth scale (松田)

Depth scale についての IODP 国際会議が 9 月 25・26 日に開催される。ODP 時代からの問題点を挙げて検討したい。9 月中旬に出席者・CDEX で対策会議。検討結果は ML で流す。

### (3) Digital Taxonomic Dictionary (鈴木)

高知の STP で提案し、タスクフォースとなった。レファレンスや慣れていない学生乗船者のために Digital Dictionary が必要である。Digital Taxonomic Dictionary についての IODP 国際会議が 9 月 29・30 日に開催される。日本からは相田・岩井が出席する。

## 11 . 専門部会活動について (斎藤部会長)

### (1) 専門部会の役割

・ STP 対応、「ちきゅう」に向けた CDEX との連携、の 2 点が重要であろう

【委員等】STP に提案するときは、Recommendation まで用意して臨む必要がある。

【部会長】パネルの使い方がアメリカは上手い。実現させたいことをどんどん提案する必要がある。能動的に専門部会を動かして生きたい。

【委員等】STP アジェンダへの組み込みを目指すのであれば、早い時期に部会を開催しなくてはならない。

【委員等】専門部会の活動が活発にならないと、国内の要望をアジェンダに入れるという作業は不可能。

【委員等】 action Item に入っていれば agenda には入る．新しく取り上げるとすれば重要性が必要．  
【部会長】 J-DESC と CDEX のパイプが明言されていない．会則を変更して，CDEX に勧告できる道をつけたい．この件は，今後も継続して審議する．

【委員等】 重要な案件があっても半日では検討時間が短すぎる．

#### (2) WG活動の推進

- ・ 情報WG：2006年4月に任期が2年延長された．
- ・ 非破壊計測WG：今年度末に任期延長の必要あり．次回の専門部会で．
- ・ 孔内計測WG：成果物のとりまとめを求める．本年内に出版すること．

#### (3) メンバーシップ

- ・ STP 山本委員が退任．1～2ヶ月のうちに次の委員をノミネートしたい．部会長に一任．
- ・ 専門部会の委員は定員10名なので，2名の余裕がある．「ちきゅう」に向けて，必要な分野の議論が出来るようメンバーを補充したい．部会長に一任．
- ・ SAS 委員のローテーションについて J-DESC 事務局で案を作成した．

#### 12. その他

##### (1) 検討事項のまとめ

- ・ 専門部会長が今回の提言、合意事項、実行項目についてレビューし、委員が確認した。

##### (2) 次回会議

- ・ 次回 STP の1ヶ月程度前を目安に日程調整を行う。12月中の開催になるだろう。

提言 0608-1：今後乗船研究者アンケートを各航海終了後定期的に行うこと、科学計測専門部会集計部分を HP 上で結果をなるべく早い時期に適切な形で公開することを提言する。提言先：執行部

提言 0608-2：乗船研究者サポートの一環として、乗船研究者に陸上施設の利用に関する情報を事前に流すことを提言する。提言先：執行部、事務局

合意事項 0608-1：「ちきゅう」の船上計測等に関する支援、助言を効果的に行えるような、専門部会と CDEX の連携体制の構築について引き続き検討する。

合意事項 0608-2：専門部会の議事案の内容に応じて、今後会議開催時間を半日以上に設定する場合がある。

合意事項 0608-3：執行部・科学推進専門部会が行っている「NanTroSEIZE 乗船応募者促進活動」について、科学計測専門部会としても適宜協力する。

合意事項 0608-4：STP から CDEX に対して、温度・圧力計測等に関する検討を依頼された事項について、その検討結果を次回専門部会で CDEX 担当者に事前に紹介していただくこととする。

実行項目 0608-1：乗船研究者アンケートにおいて岩石学分野から XRF 等を必要とする意見が挙がっている。「ちきゅう」への XRF 搭載の必要性を具体的に示す実データを提示する。実行者：佐藤、期限：次回専門部会。

実行項目 0608-2：「ちきゅう」における Multi-data browsing system の構築について、試験航海参加者の意見を取り入れ、次回情報システムWGで提言をとりまとめ、専門部会に報告する。実行者：情報システムWG。期限：次回専門部会。

実行項目 0608-3：記載スキームについての国内コミュニティからのフィードバックを基に8月中に文書を再構築し、9月1日までにIODP-MIに提出する。実行者：斎藤（OPEN HEARING）、情報WG（再構築、提出）。

実行項目 0608-4 Depth Scale に関する問題点について現状を整理し、9月前半に関係者で Depth Scale IODP Meeting の対策会議を行う。実行者：専門部会長、坂本 STP 委員、CDEX 関係者。

実行項目 0608-5：1名もしくは2名の新委員を推薦する。実行者：専門部会長。期限：次回専門部会の2ヶ月前。

実行項目 0608-6：山本 STP 委員退任後の新規委員の推薦を行う。実行者：専門部会長。実行期限：2006 年 10 月末。

実行項目 0608-7：孔内計測WGの検討成果物について期限を設ける。実行者：孔内計測WG。期限：年内完成、年度内出版。

実行項目 0608-8：ちきゅう試験航海中の非破壊計測機器の運用状況について、J-DESC 乗船者等から意見を収集し、フィードバックをとりまとめて専門部会に報告する。実行者：非破壊計測WG。期限：次回専門部会。

実行項目 0608-9：ちきゅう試験航海中の古生物関連の状況について、J-DESC 乗船者等から意見を収集し、フィードバックをとりまとめて専門部会に報告する。実行者：岩井、鈴木。期限：次回専門部会

実行項目 0608-10：ちきゅう試験航海中の古地磁気関連の状況について、フィードバックをとりまとめて専門部会に報告する。実行者：小田。期限：次回専門部会。

#### 【追記】

議案 10 . STP/IODP Meeting 対応について ( 1 ) VCD Lithology ( 成瀬 ) および、実行項目-3 に関する追記

専門部会会議では、「IODP の標準参照スキームのたたき台として提案すべきである」という意見が多数あり、今回は依頼文の推敲で対処し、本文は国際会議提出前に適切な表現に変えるという共通認識を得たが、8月3日～4日の i-keisok ML 上での議論（成瀬委員、岩井委員、坂本情報W長、斎藤専門部会長）において、IODP-MI の国際会議の趣旨や経緯、情勢を鑑み、当初原案通り「ちきゅう」案として提示するよう、再度方向修正した（必要に応じて継続検討）。依頼文はスキーム第一案が「ちきゅう」搭載を前提に作成してきたという経緯と同時に、IODP の標準参照スキームのたたき台を目指していることが明確になる文面とした。執行部担当者へ報告の上、8月4日午後に専門部会長より、J-DESC のメーリングリストへ依頼文と記載スキーム第一案（簡易版）を配信した。記載スキームのフルバージョンは <http://www.j-desc.org/oshirase/news/VCD.htm> に掲載した。